

### 第3回精華町子どもの食のあり方懇談会 会議録

名 称	精華町子どもの食のあり方懇談会[第3回]	
開催年月日 開催場所	平成24年11月26日(月) 午前10時00分～午前11時30分 精華町立図書館 1階 集会室 (精華町役場内)	
出席者名	委 員	(出席委員) 大谷貴美子、姫野良隆、曾原肇、瓦俊夫、北澤智、有城義浩 吉川博文、堀切珠美、小田英美、森田理恵、木原國夫
	事務局	(事務局) 太田教育長、竹島学校教育課長、小西担当課長補佐 土井担当係長、下田栄養士
傍聴人	1人	
配布資料	参考資料 「設備整備費・調理業務費 概算経費一覧」	
議事の概要	1 開会行事(教育長挨拶) ・第2回懇談会会議記録の確認(事務局) 2 協議 (1) 配布資料内容について(事務局) (2) 給食の実施方式について (3) 小学校、中学校の食育について (4) 精華町にふさわしい給食のあり方について 3 その他 ・第4回懇談会の開催日時の確認⇒2月中旬 4 閉会挨拶	
会議の経過	別紙のとおり	

## 【第3回 懇談経過】

### 1. 開会

- ① 大谷会長の開会宣言の後、第2回の会議記録の確認を行った。
- ② 教育長の挨拶を行った。

### 教育長挨拶内容

おはようございます。本日は足元の悪い中、第3回精華町子どもの食のあり方懇談会にご参加いただきありがとうございます。9月14日が第1回、10月23日が第2回ということで、精華町の食のあり方について、幅広く議論をしていただきました。内容については会議記録にあるとおりでございます。いろいろな角度から、食育、昼食のあり方ということでご意見をいただきました。その中でも中学校給食について積極的なご意見をいただきましたが、基本的には弁当のよさを生かしながら、給食を前向きに考えていく方向で考えてまいりたいと思っています。今回は第3回目ということで、中学校給食を実施する前提で、中学校給食のあり方について、これまでの協議内容や前回までの資料等も踏まえてご意見をいただきたいと考えております。そして、第3回までの会議内容をまとめ整理をした上で、町民のみなさまにパブリックコメントを問いかけまして、それらの意見を踏まえて、最終的にこの懇談会のまとめを行いたいと思います。食育の話もでておりますが、その中でもとくに中学校の食のあり方についてまとめをしていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

### 2. 協議

配布資料についての説明を事務局から行った。

(会長)

事務局からの説明を受け、各委員からの意見を聞く。

#### 1. 給食の実施方式について

○今回配布された参考資料を見る限り、自校方式でもセンター方式でも費用の差は見られないため自校方式を希望する。しかし、用地がないということで精華西中学校では難しいと感じている。現在、小学校は自校方式給食で、給食前になると給食室から香りがたぐよい、子どもたちは今日の給食は何であるか楽しみながら過ごしている。少し勉強が嫌だなという子どもも、給食があるからやる気になることもある。また、調理員さんとのコミュニケーションも図れるので、自校方式給食が理想である。しかし、現状では難しいこともあると思う。小学校では、6年間を見通して食育をしているが、中学校に入ると意識が落ちてしまうのは残念なことである。今後は、栄養教諭の方からも中学校へ発信していければと思っている。その中で、自分で食べるものについて、自分で考えるようになってほしい。

○中学校教師の大半は給食へ気持ちが進まないというのが現状である。今回の資料を拝見して最初に思ったことは、これだけのお金をかけて弁当をやめる理由があるのかということである。学校では様々な施設の改善をしてほしい箇所もあり、そのほかにも消耗品、光熱費等でも苦勞している様子を見ているため、もっと生徒の学校生活に生かすような活用の仕方があるのではないかと考える。しかし、今は給食を実施する方向でということなので、その点についての意見はない。

○自校方式、センター方式以外に、親子方式、デリバリー方式ではどのくらいの経費がかかるのか、もし実施するとなれば、個人負担はどのくらいになるのかをもっと詳しく知りたい。また、建設用地の件では、精華西中学校では余裕がないため、自校方式はできないということになる。そうすると、精華西中学校だけ別の方式で実施することは可能であるかも教えていただきたい。

⇒給食費については、第2回の資料で近隣の給食費の状況を配布しているが、その中で中学校については、1食230円から270円となっているので、精華町でもこのくらいの金額になるのではないかと思う。方式については、親子方式は、現在できる調理能力と中学校の生徒数を考えると、大規模な改修をしない限りは不可能と考えている。

○デリバリー方式で弁当を提供した場合、だいたい400円ぐらいかかってくる。

○地域によっては、行政が負担して300円ぐらいでされているところもあると聞いている。

○給食として一括購入した材料で作ると安い値段でいいものができる。しかし、デリバリーになると委託業者が入るので、その値段で同等の材料を手に入れることができるかどうか、難しい問題である。安くできても品質の問題がどうであるかを考えていく必要がある。

○予算の問題等あると思うが、保護者としては自校方式の方が安心である。センター方式であれば、衛生面など不安な面がある。センター方式であれば、高いお金を使ってまで給食をしなくてもいいと思う。保護者の中では、できるなら給食をしてほしいという思いはあるが、安全に衛生的に提供されないものであるなら必要ないと思っている。小学校の食育はお便りなどによる発信が充実しており、どのようなことを伝えようとしているのか、どんなものが体に良いのかなどわかりやすく、子どもの中に素直に入ってくる。小学校でされている給食、食育を思っただけで中学校給食を希望していたが、そうでないのであれば、中学校では給食でなくてもよいと考える。ただ、給食を提供してお昼を食べさせて親が楽だということでは、高いお金をだして給食を実施しても意味がないと思う。

○中学校給食の実施について、私たち保護者は随分前から希望していた。食のあり方懇談会で中学校給食について決めるということであるが、PTAがたった2人で、あとは各先生方であるので親の意見を発言しにくいところがある。中学校の先生がなぜ強く給食を否定しているのか親の立場としてわからない。荒れた学校では給食をやりにくいという話もあったが、精華町に関してはそのようなことはないと思っている。今回の資料を見ると給食を開始するのは、確かにお金がかかるが、もっとお金がかからないように考えて実施することもできるのではないかと考える。たとえば、精華南中学校は、山田荘小学校での親子方式が可能であり、精華中学校に関しては、学校の改築が計画されているので、そこで給食室も建設する。精華西中学校に関しては、自校方式は無理なので、西中専用のセンターを設けるなどである。もちろん、親としては自校方式で温かい給食が一番だが、それは最終目標として、ランチボックスから始めることや、精華南中学校で親子方式を試験的に開始することなどもできるのではないかと思う。

○保護者の方がセンター方式について、少し誤解されているので訂正する。センターでも、もちろん温度管理、衛生管理等きちんとされている。自校方式だから、センター方式だからということではなく、その場で働いている者の意識の問題である。もちろん、行政の力も重要である。センター方式だから食中毒が発生するとか、時間がないから適当に焚いてしまうということはありません。また、中学校での食育についても、今は充分できていないところがあるが、給食が始まれば栄養教諭等が学校に配置され、小学校の栄養教諭も一緒になって指導をすすめていくことができると思う。

○行政として、学校によって方式が変わるといようなことは考えているか。

⇒精華南中学校の生徒数と山田荘小学校の調理能力からみると、親子方式は可能だが、現段階の人数だけでみているものなので、実際にそれだけの調理をして給食を提供できるのかどうかは、詳しく調べてみないとわからない。また、精華西中学校に関しては敷地がないので、精華中学校の改築に合わせてセンターを建設するとなれば、どのあたりでできるのかということも見極めながら考えていかなければいけない。給食を開始するとして、弁当の日を設けることも考えている。その際には、子ども自らお弁当を作るなど課題を与えることで、親の有り難さ、愛情弁当の有り難さもわかるのではないと思う。自校方式かセンター方式かについて、どちらにしても合わせる必要があると思うが、親子方式かセンター方式かでいうと、別のところから運ばれてくるという意味では同じなので、問題ないと考える。

## 2. 小学校、中学校における食育について

○国の食育基本法では、あらゆる世代において食育を推進するという形になっているため、小、中、高で食育に取り組んでいるが、熱心に取り組んでいるのは小学校を含めた小学校以下の世代で、中学校、高等学校になるにつれて食育が薄れ、大学生になったころには忘れてしまっているということが、現実問題としてある。その点でも精華町で食育を推進していくという視点に立てば、中学校に小学校の食育をどのようにつなげていくかということが大きな課題になる。その時に給食をどう位置付けていくかということも課題となる。大変なことではあるが、健康寿命をのばすために、体が作られる時期である中学校時代にどのように食育に取り組むかが大事になってくる。そこで、中学校給食をどうすべきかも合わせて考えなければいけない。

○小学校6年間でやってきた食育が、中学校に入ると給食がないので食育の意識が薄れているという現状認識については少し疑問がある。給食のない中学校の家庭科の授業を参観した時、生徒たちは協力しながら楽しく調理実習をしていた。衛生面、調理器具、ガスの使い方、安全面、食材の廃棄率の算出等を含めた調理を、役割分担と時間配分を考えながら生徒たちはしっかり実習していた。その中学校では、実習の前の時間に、献立や調理の仕方だけでなく伝統食や地産地消等についてもワークシートで学習している。

それから、中学校給食を実施するにあたっての課題の一つは給食時間の問題である。生徒たちが落ち着いていない学級では、午後の授業時間の確保の面からも、給食指導する教師が複数必要となる。また、実施方法としては、自校方式が良いと思うが、センター方式であっても、配膳時間等の短縮を工夫する必要がある。

○以前精華町で、子どもの体力向上の取組をしていた時には、教育委員会で担当をしていた。今は生活習慣病が問題になっている中で、健康で長生きするという部分で考えると、基本になるのは食と運動である。特に、食は大事なもので、小学校での6年間の食育の積み重ねを中学校でも継続することが基本になる。その中で給食の果たす役割が大事になってくる。そこで、小中9年間をとおして給食を中心とした食育を基本としていくのがよいのではないかと思う。しかし、中学校の先生の立場から生徒指導上の問題や、精華西中学校の敷地の問題をクリアすることは簡単なことではないと思う。さらに、実際中学校で給食を実施した場合に、時間等の負担もでてくるので、部活の時間等、生徒たちの生活の時間を保障していくタイムテーブルも合わせて検討していかなければいけない。

○私は自校方式、センター方式、どちらも経験してきたが、きめ細やかに配慮していただけるのは自校方式であると思う。また、温かいものは温かく、冷たいものは冷たく提供していただける。もちろん、センターでも努力されているが、自校方式には及ばないところである。食育の観点からは、小学校でも中学校でも弁当であっても食育を推進していくという話であったが、推進するという上では、主に担任が指導に関わるが、栄養教諭の配置が大きなウエイトを占めている。精華町では町内で統一してすすめていく委員会があるが、その場で意見交流をし、課題をまとめて全校に対して3人の栄養教諭で動いている。そのことで大きな成果がでていっていると思う。さらに基本になることは、学校、家庭との連携を果たしていくことを見逃さないことである。中学校の給食については、私自身はよくわからないが、すでに実施されているところでは課題もあり成果もあると思う。その成果について具体的に出していただければ議論が進んでいくのではないか。また、その成果を伸ばしていくような学校給食にしていければよいと考える。

○事務局で中学校給食実施校の成果などのデータがあるか。

⇒成果ということではないが、前回に配布している資料の栄養教諭栄養職員から聞き取りした中では、給食開始によって給食にちなんだ食育を実施することができたとある。

### 3. 精華町にふさわしい給食のあり方について

○保護者の方から、給食をするにあたって、ただ親が楽になる、子どもがおなかいっぱいになるだけの給食であれば、これだけのお金をかけて実施していただかなくてもよいという意見があったが、私もやるからには、特徴のある他にない給食をされるのがよいのではないかと思う。

○中学校で給食を実施するという前提で話をしているが、中学校の立場からすると、給食というのは未知の部分がある。給食が始まるにあたって気持ちの切り替えは難しいところである。しかし、時代の流れから給食の実施はさけて通れないことであると思っている。給食をしないといけないからと安易にランチボックスで給食開始とするのではなく、弁当のよさを生かした給食を実施するために、この懇談会を開き、中学校給食実施にあたっての課題や子どもたちにとって望ましい給食はどのようなものであるかを話し合う場が設けられたことはすばらしい。精華町では今までお弁当でやってきているので、給食開始となった時に、弁当に代わるものを給食として与えないことには子どもたちの満足感は得られない。

ただ、食べるものが与えられるというだけでは満足しない。おいしそう、食べたいと思えるような給食でないと成功しないと思う。給食を実施するのであれば、精華町ならではの給食を追及していくべきである。また、その給食に対して中学校も食育として責任をもたなければいけない。今回の懇談会の後、パブリックコメントを求めて、食のあり方懇談会の方向性を出していくが、そこですぐに給食を開始するというわけではなく、そこからまたさらに懇談会を開き、中学校給食について議論を深めることになる。その場でぜひ、他にはない精華町の給食を実施していただきたい。

○先生が考えておられる精華町ならではの給食というのはどのようなものか。

⇒お金はかかるが、カフェテリアの併設や、器や彩りが美しい食欲をそそるような給食が私のイメージとしてある。

○保護者の目からみて、小学校の給食の献立はおいしそうなものばかりだと思う。

○精華町の小学校では食器は陶器のものを使っている。食欲をそそる献立作りは栄養士、調理師の腕の見せどころである。

○献立の中で手の込んだものを実施する場合、人件費もかかってくるが、少なくとも栄養士の数が増えないことには何もできない。

○子どもへの指導面でも、話をすることで残食の量も変わってくる。地元野菜の話をする、それを意識して食べている。働きかけをすることは大事であると思うので、栄養教諭の配置はしていただけたらと思っている。

○懇談会の冒頭に配布した参考資料が経済的なもので、みなさんがそれに縛られてしまっているように感じている。行政としては、前回の資料と合わせて議論していただけるものと考えていた。学校施設等に予算をあててほしいというような話もしたが、そうすると混乱するため、今回は学校給食だけに注目して議論を進めていただきたい。そこで、ランチボックス、デリバリー方式についてどのような評価をしているかと、親の負担軽減というのも欠かせない要素であると思うが、その点についても意見をいただきたい。

○今現在実施している斡旋弁当も、デリバリー方式になると思うが、生徒の利用率は低いという状態である。その中で、ランチボックス方式、デリバリー方式にした時、果たして子どもたちに受け入れられるのかという問題がある。また、選択制となれば、補助金の問題もでてくるので非常に難しいと思う。

○デリバリー方式では、給食のイメージとは少し違うと感じる。

○選択制では、給食という形とは違ったものになる。選択制のランチボックス方式にするならば、今現在も斡旋弁当を実施されているので、何も変わらないのではないかと。

○行政としては、選択制は思っていないが、どのようにお考えかの意見をいただきました。

○保護者の立場から、栄養士が管理した献立メニューを業者が調理してランチボックスに詰められた給食と、センターや自校で作られた子どもたち自身が配膳する給食では、どちらがよいか。

⇒もちろん、センター方式、自校方式を希望する。実際に、中学校で給食をされている地域はたくさんあるので、精華町で何ができないのかがわからない。

○中学校ではどうか。

⇒中学校では、栄養士が管理した献立メニューを業者が調理してランチボックス等で運ぶ形も選択肢として考える。

○精華町で今実施されている給食や食育をそのまま中学校でしていただけるのが、一番の希望である。どんな形であっても、給食になってよかったと感じることができればよいと思う。今、お弁当を頑張っている親たちを裏切らないものにしてほしい。

○自校方式が理想であるという理由のひとつは、温かいものが食べられることはもちろんだが、何よりも作っている人が近くにいる、作っている人たちのメッセージが伝わるということである。それが、中学生に通用するのと言われるかもしれないが、食育を進め、その中に給食を位置づけていく上で、とても大事なことになってくると思う。子どもたちに作っている人たちのメッセージを伝えることで、同じ食事をするときでも、捉え方が違ってくる。しかし、限られた人件費で、敷地の問題もある中で、困難かもしれないが、作り手が見える給食が理想である。また、小学校でも荒れている学級では、給食時間、掃除時間に表れてくるため、中学校での問題もわかるが、逆にそのことに力を入れることで、生徒の生活の力に変わるのではないか。

○作り手が見えるというのはもちろん大事で、さらに近くで給食を作ることで、香りや音などから五感が刺激され、脳が活性化される。そのようなことから理想は自校方式である。

○給食が始まれば、中学校にも栄養教諭が配置されることになると思うが、担任の力が必要である。やはり食育を進める上では、給食ということで全校職員に子どもたちに伝えてほしいことを言うことができる。そして、同じものをめざして食育ができるのではないかと思う。また、試合の前にはこのようなものを食べるといいというようなスポーツ栄養の話もできるのではないかと思う。

○給食を開始する中で、ランチルームを作ることができればよいと思う。ただ、給食施設をつくるということではなく、食べる環境づくりということで議論していかなければいけない。

○中学校給食に関して、子どもたちの 50~70%は弁当希望、保護者の 50~70%は給食希望という結果がある。いろんな場面で、「子どもたちの気持ちを大事にすることが大切」と指摘されることがあるが、この指摘は、「子どもたちの言うことは何でも受け入れる」ということではもちろんなく、「子どもたちの希望を踏まえながらも、大人が判断しなければならぬことは大人が決定する」ことであることはい

うまでもない。ただ、中学校給食の実施が、保護者が楽になるため、就労対策のためだけに実施されたという印象を子どもや保護者に与えないためにも、栄養バランスがとれたおいしい給食に努めるとともに、家庭での食育の充実が求められる。

#### 4. まとめ

○予算、敷地の問題はあるが、理想としては自校方式である。そして、弁当のよさを生かすために弁当の日を残しつつ、中学校給食を実施する。今までお弁当であった分、量の問題で食べられなかったり、残食が増えたりする問題がでてくると思うが、中学生で必要な量、必要な栄養を教えるのも食育ではないかと思う。また、中学校では、忙しい中でどのように給食を進めていくのかということも課題になる。

○給食を実施するメリットがあることはよくわかるが、中学校の現場にいるものとして、デメリットの方を多く感じている。そこで、実際に給食を実施されている中学校において、どのような考えで給食実施に踏み切ったのかを知りたい。また、方式についてもなぜ、選択制やデリバリー方式に決まったのかなどもわかれば知りたい。私としては、自校方式で作り手が見えるというのはよいと思うが、今の子どもたちの活動の場が削られないようにしたい。課題として生徒指導上の問題は否めないと思う。また、中学校では部活動で学校生活が生き生きとしたり、社会性を身につけたり、人間形成につながるという意味で大事なものになっているため、給食の実施によって部活動の時間が短くなるということも避けたい。

○パブリックコメントを求める際には、様々な立場からのメリット、デメリットを考慮して議論された内容を書く必要があるのではないか。

○今回で第3回目であるが、パブリックコメントを求めるにあたって心配なことは、議論が積みあがっているようにも思えないことである。常に中学校でのデメリット部分が並行しているため、中学校側の意見をまとめ、整理をしてから再度委員の皆様にご確認していただいた上で、パブリックコメント案を提出したい。

#### 3. 次回の懇談会について

年内に第1回から第3回までの懇談会の内容のまとめ、中学校でのメリット、デメリットをまとめたものを提出する。それらをご確認していただいた上で意見をいただき、最終案を作成する方向で考えている。次回は、パブリックコメントをいただいた後、それらの意見を反映した形で最終のまとめとする。次回日程については、2月中旬頃を予定している。

#### 付記

議論をもう少し、さらに深めるため、1月に再度懇談会を開催することとする。